

誇りある国づくり運動に立ち上った人々◆

知らずのうちに社会主義運動を手伝っていたのです。

それが一変したのが平成に入つた頃のことです。40代になり、花巻で会社員をやっている頃、倫理法人会と、掃除に学ぶ会にご縁ができました。そこで現在に至る仲間との出会いを得て色々な事を学び、これまでの活動がイデオロギーに基づいたものだったのだと、ようやく気付いたのです。そこで私はすぐに、かつて応援していた社会党の議員に手紙を書いて決別を宣言しました。

私の父は兵隊として戦地で戦つた人間です。若い頃は「戦争しては悪い」とよく父を責めました。のちに、それは自衛のための戦いであったこと、教科書では教えない史実を知り、今では父に悪いことをしたと後悔しています。そういうこともあって、特に私は国民教育に関心を持ち、歴史教科書の問題に取り組みました。

憲法改正は時代の要求

――日本会議とはどういうご縁が



で手分けで配布。前より、使う資料はおせていている。メンバーによる作成する資料してわざも状況に分けている。

あつたのでしょうか。

やがて安倍政権が誕生し、憲法改正への期待が一気に高まりました。しかもその声は日増しに大きくなつており、憲法改正は時代の要求なのだと感じています。今を生きる日本人として、これほどの一大事、一大責務が今後訪れるものかと。

日々平穏に、きれいに舗装された道を傷付かずに歩いてみたいとたきつかけは5年前の大震災になりました。私は、甚大な被害に遭りました。私は、仲間と共に仮設トイレの掃除に通つておりました。そこには全国から多くのボランティアが集まり、懸命に活動を行う姿がありました。この御恩返しとして、少しでも日本再建のために力を尽くしたい、そう思つたのが最初のきっかけでした。一方で、

当時の民主党政権は、被災地はまだ水も出ないような状況だといふのに、夫婦別姓、外国人参政権などの問題の多い法律を、表に出さず水面下で推し進めようとしました。これを食い止めるためには、我々が組織をつくつて声を上げなければ、この思いがその後の行動を強く後押ししました。

――鎌田さんにとって、憲法とはなんでしょうか。

鎌田 憲法とは国柄を映すものであり、日本人としての基本に立つて「日本をこういう国にしたい」と示したものだと思っています。

会社で言えば経営理念のようなものが、しっかりと企業は理念に基づいて経営がなされています。我が国には、聖徳太子の十七条憲法に始まり、明治の五箇条の御誓文など、それに当たるのがちゃんとありました。これをこそ今しっかりつくつておかないと、その下に位置づけられる法律も、本質がブレたものになつてしまいかねません。

大衆に迎合する最近の政治家がつくる法律で日本が立ちゆかなくなる前に、大本の憲法を正さなければならぬ。そのため、出会いと絆に感謝し、信頼する仲間と共に関係各位のご指導を頂きながら、幾らかでも社会的責務を果たしたいと思っています。